

スローガンの意義 I

ゼムストヴォの存在が国に穏健な憲法をあたえる最良の機会であるかのように、——「権利と権能あるゼムストヴォ（と）を」というスローガンが、革命運動とは言わないまでもせめて立憲主義運動の旗じるしとなりうるかのように、考えるのは、偏見である。それは、**敵と味方を区別することをたすけ、運動に方向をあたえ、それを導くことのできるような旗じるし**ではない。それは、もっともたよりにならない連中が運動に取りいってくるのをたすけるだけのぼろであり、政府が声高の約束と中途半端な改革とでごまかそうと試みるのを、もう一度容易にするぼろである。 (と)は誤植か

第五卷 ゼムストヴォの迫害者たちと自由主義のハンニバルたち P66

1901年6月に執筆

コメント

スローガンは「**敵と味方を区別することをたすけ、運動に方向をあたえ、それを導くことのできるような旗じるし**」でなければならない。だれもが言うような一般的な改善要求や、たよりにならない連中を結集するための「ボロ切れの旗」であってはならない。